ウメモト インフォメーション

２０２3年　12　月　6　日　　担当　ジョン

原油が反落、中国景気懸念根強く

6日朝方の国内商品先物市場で、原油は反落して取引を始めた。取引量が多い2024年4月物は1キロリットル6万9160円と前日の清算値に比べ870円安い水準で寄り付いた。米格付け会社ムーディーズ・インベスターズ・サービスが5日、中国の信用格付けの見通しを「安定的」から「ネガティブ」に変更した。中国の景気先行き懸念が根強く、原油需要が鈍るとの見方から国内原油先物に売りが出た。

日本時間6日午前の取引でニューヨーク原油先物が下落し5カ月ぶり安値をつけており、国内相場に売りが波及した。サウジアラビアがアジア向けの原油の販価を引き下げたと伝わり、需要の弱さが市場で意識された面もあった。石油輸出国機構（OPEC）と主要産油国からなる「OPECプラス」が前週、追加の協調減産を見送っており、今後のOPECプラスの減産姿勢に市場で懐疑的な見方が広がっていることも、相場の重荷となった。

引用記事　　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０２3年　12　月　6　日　　担当　ジョン

物流の運輸労連、賃上げ1万5000円要求　30年ぶり水準

トラック運輸を中心とする労働組合で組織する全日本運輸産業労働組合連合会（運輸労連）は、2024年の春季労使交渉で賃上げの統一要求基準を月額1万5000円とする方針を固めた。定期昇給（定昇）を含めた全体の賃上げ率は6%と30年ぶりの水準を目指す。

6日午前の中央執行委員会で決定した。運輸労連は物流各社など計416組合が加盟し、約10万9000人の組合員を抱えている。

1.5%の定昇に加え、基本給を底上げするベースアップ（ベア）に相当する賃金改善分4.5%の計6%を求める。1万5000円が地域の実態と大きく異なる場合には、各地域ブロックの加盟組合ごとの所定内労働時間賃金をベースとし、6%を掛け合わせて算出する。運輸労連は23年に月額1万3700円の賃上げを求めていた。

連合は24年の春季労使交渉で賃上げの要求水準を「5%以上」としている。運輸労連の要求はそれを上回る水準となる。物流業界ではトラック運転手の時間外労働に上限規制が適用される「2024年問題」が差し迫り、中小事業者を中心に今後のドライバー不足が懸念される。物価高に伴う足元の家計負担も踏まえ、待遇改善を通じた人材確保には要求のさらなる引き上げが必要と判断した。

運輸労連にはヤマト運輸や日本通運などの労働組合が加盟している。

引用記事　日経新聞

ウメモト インフォメーション

２０２3年　12　月　6　日　　担当　ジョン

セコマ、コンビニ廃食油でバイオ燃料　24年春から増産

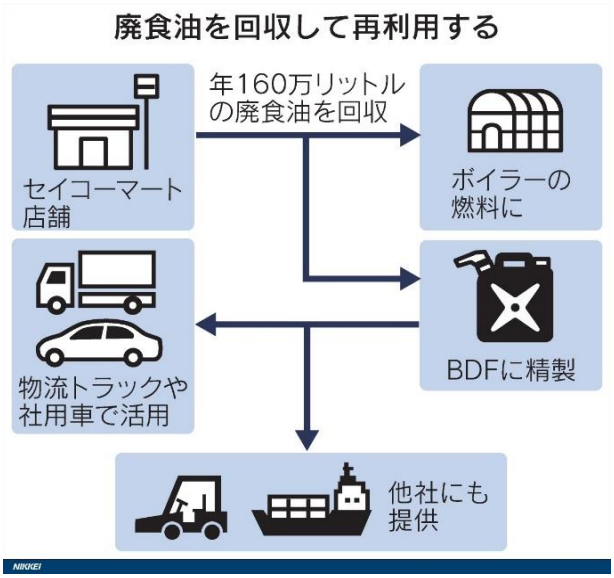
コンビニエンスストア「セイコーマート」を手掛けるセコマ（札幌市）は、店内調理する店舗から出る廃食油をバイオディーゼル燃料（BDF）に精製し、自社グループのトラック燃料に使っている。2024年春をめどにBDFの生産能力を従来の2倍に増やし、他社にも提供。年間約160万リットル出ている廃食油をほぼ使い切る。

植物由来のBDFは燃やしても二酸化炭素（CO2）を出していないとみなせる。軽油を置き換えることで実質的なCO2排出量の削減につながる。セコマは19年、BDF精製の白老油脂（北海道白老町）を買収した。同社でBDFにできる廃食油の量は現在45万リットル規模で、生産工程などを見直して約90万リットルを処理できるようにする。

セイコーマート店舗では、店内調理する「ホットシェフ」でフライドチキンやカツ丼などをつくる際に揚げ油を使い、大量の廃食油が発生する。道内1000店強の内、約8割の店舗にホットシェフがあり、廃食油の量は年間約160万リットルに達する。

約20年前から廃食油を燃料とするボイラーを導入し、物流拠点で使うかごの清掃や農業法人で設置するビニールハウスの熱源として約70万リットルの廃食油を活用してきた。白老油脂の買収でBDFの精製にも乗り出したのは「ホットシェフ導入店舗の拡大で廃食油の発生量が増えた」（物流子会社、セイコーフレッシュフーズの堤豪気専務）ためだ。

20年からまずセイコーフレッシュフーズの4トントラック8台で、燃料の軽油をBDFに置き換えた。通常よりエンジンオイルは劣化しやすいが、オイル交換の頻度を上げることで対応した。BDFは気温が下がると固まる性質があるため、冬場は使わない。23年は4トントラックと社用車の合計28台にBDF導入車両を広げた。



他社への提供も始めた。日本航空（JAL）や豊田通商と組み、8月からの3カ月半、新千歳空港内で貨物を運ぶ「トーイングトラクター」など3台でBDFを使う実証実験をした。合計で約2000リットルのBDFを使い、5.24トンのCO2削減につながった。

「既存の軽油車両を改造せずに使えるのがメリット。エネルギーの地域循環にも貢献できる」（JALグランドハンドリング企画部の塩塚健司氏）。JALは成田空港など北海道外で既にBDFを通年で使用しており、新千歳空港でも今後、冬にBDFを活用できるようにする方法を検討する。

出光興産はセコマグループのBDFを重油に混ぜ、苫小牧港（北海道苫小牧市）でナラサキ石油（札幌市）が運航する海上給油船に燃料として供給し、2～3月に試験運航した。港の既存設備をそのまま活用でき、重油と混合したため冬場の運用にも支障はなかったという。

セコマでは増産したBDFを他社への供給拡大に充てる方針だ。セイコーフレッシュフーズの堤専務は「北海道で少しでもBDFの活用拡大につながればいい。将来的に需要が高まれば、さらに設備投資をして生産量を増やすことも検討する」と先を見据えた。

２０２3年　12　月　6　日　　担当　ジョン

施工時CO2排出ゼロ

建設機械メーカーの技研製作所は外部給電式の電動パワーユニット「MU200」を開発した。同社の油圧式杭（くい）圧入機の動力源として使えば、送電網やバッテリーから電力を得るため、施工時の二酸化炭素（CO2）排出量をゼロにできる。まず脱炭素化を重視する欧州連合（EU）市場に投入、2024年からレンタルを始める。

MU200は杭圧入機「サイレントパイラー」7機種と、先端に切削爪が付いた鋼管杭を回転させながら圧入する「ジャイロパイラー」1機種に対応する。

これまで同社はディーゼルエンジン式のパワーユニットで油圧ポンプを動かしており、燃料の軽油（満タンで500リットル）を使い切ると約1.3トンのCO2を排出していた。

MU200は高効率な電動モーターを採用し、ディーゼルエンジン式に比べて使用エネルギーを約20%削減した。軽量化や小型化も同時に実現し、狭い場所や住宅に近い現場でも使えるようにした。

同社はオランダ・アムステルダム市の運河の護岸改修プロジェクトで電動のジャイロパイラーを導入した実績がある。今後、50年を目標に、ディーゼルエンジン式パワーユニットの出荷数ゼロ、圧入施工時のCO2排出を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」を目指す。

引用記事　　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０２3年　12　月　6　日　　担当　ジョン

週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル／バーレル	前週比	ドル／円	前週比	円／ℓ	前週比
火曜日～月曜日	10/24～10/30	89.92	▲2.12	151.05	0.22	85.42	▲1.89
	10/31～11/6	87.01	▲2.91	151.32	0.27	82.81	▲2.61
	11/7～11/13	82.44	▲4.57	152.00	0.68	78.81	▲4.00
	11/14～11/20	81.64	▲0.80	151.90	▲0.10	77.99	▲0.82
	11/21～11/27	82.64	1.00	149.92	▲1.98	77.92	▲0.07
	11/28～12/4	81.39	▲1.25	148.29	▲1.63	75.91	▲2.01
水曜日～火曜日	10/25～10/31	89.58	▲2.71	151.00	0.13	85.07	▲2.50
	11/1～11/7	86.65	▲2.93	151.47	0.47	82.55	▲2.52
	11/8～11/14	81.78	▲4.87	152.33	0.86	78.35	▲4.20
	11/15～11/21	81.49	▲0.29	151.18	▲1.15	77.48	▲0.87
	11/22～11/28	82.41	0.92	149.91	▲1.27	77.70	0.22
	11/29～12/5	81.02	▲1.39	148.09	▲1.82	75.46	▲2.24

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート

引用記事　　日経新聞　　燃料油脂新聞